

日本語演習

4単位 (選択) 3年(前期), 4年(前期)

岸江 信介・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 日本の一地域においてフィールドワークを行い、調査によって得られたデータの処理の方法として、「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ。

【授業概要】 地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする。日本語諸方言の音韻・アクセント・文法・語彙などの特色を把握する。前期後半では、フィールド調査に関する調査票の作成、フィールド調査の方法等について学ぶ。夏期休業中期間等を利用し、フィールドワークを実施する予定である。現段階で調査地域は未定である。ちなみに、10年度は三重県志摩地方に3泊4日の調査に出かけた。調査地域は、受講生の意見を尊重して決める予定である。後期では、エクセル、音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担を決め、各自発表を行うことにする。また、年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である。

【キーワード】 フィールドワーク、方言調査

【履修上の注意】 夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】) 野外での方言調査を通じて、生きた方言に触れる

【授業計画】

1. 方言調査とは?
2. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 1
3. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 2
4. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 3
5. 各グループによる調査票の準備と検討 1
6. 各グループによる調査票の準備と検討 2.
7. 各グループによる調査票の準備と検討 3
8. グループ毎で調査項目の作成 1
9. グループ毎で調査項目の作成 2
10. グループ毎で調査項目の作成 3
11. 各自(各グループ)による録音機器類の操作方法の習得
12. 各グループ毎で話者を斡旋してもらうため、調査地へ連絡をとる
13. 調査票全体の作成 1
14. 調査票全体の作成 2
15. 調査票全体の作成 3

16. 調査のしおりの作成と調査の実施

【成績評価】 成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること。調査への参加は出席点に加える。

【教科書】

- ◇教科書:特に指定しない
- ◇教材:授業でプリントを配布する
- ◇西日本諸方言に関する必要な論文、データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220374>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。